

鳥飼八町地区協議の場の結果

日 時：令和 7 年 1 2 月 1 3 日（土） 午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分

場 所：市立第 1 2 集会所（鳥飼八町 1-8-8）

参加者：農地所有者及び地域住民	: 17 名
摂津市 産業振興課 農政係	: 2 名
摂津市 農業委員会事務局	: 1 名
大阪府 農政室 総務企画グループ	: 1 名
大阪府 北部農と緑の総合事務所 地域政策室	: 1 名
北大阪農業協同組合	: 2 名

配布資料

- ・レジュメ
- ・説明資料
- ・（様式 1） 地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）変更申出書
- ・様式（例） 1-1 農地貸付申出書 及び 記入例

協議の内容

1. 地域計画のブラッシュアップについて

- 市（産業振興課農政係）からご参加いただいた方に対し、令和 6 年度において地域計画の策定にあたり、協議の場に参加し様々な意見や提案をいただいたことについて感謝の意を伝えた。
- 策定した計画は、そのままではなく、地域の農業が持続・発展するために定期的に話し合いの場を設け、内容の見直しや修正が必要であれば、内容を変更していくことについて理解を求めた。

2. 協議の場の開催、計画内容の変更について

以下、参加者による話し合いで決定した事項

①定期開催の方法と時期

- 定期開催については、対面開催とする。
- 11 月から 3 月までの間で、市立第 12 集会所で開催する。

②随時開催の方法

- 地域計画変更マニュアル（Ver2.2）で示されている「軽微な変更」、関係者が少ない小規模な農地の転用や区域内の縁辺部にあり今後農業上の利用が見込めない小規模な農地を区域除外する場合は、「関係者のみの事前

調整」で実施する。

- 「関係者のみの事前調整」は、摂津市農業委員会、北大阪農業協同組合、一般財団法人大阪府みどり公社、神安土地改良区、地元代表者の5者間で調整とする。
- 「関係者のみの事前調整」の開催判断は、変更内容について地元代表者に地域農業の実情を確認したうえで、市地域計画担当課で決める。

③計画変更内容の最終決定方法

- 対面による話し合いにおける計画変更内容の最終決定方法は、開催時に参加した者から合理的な反対意見が出ない場合は、変更することに同意したものとする。

3. その他

- 大阪府みどり公社を介した農地の貸し借りについて説明する。
- 利用権設定の延長について説明する。
- 地域計画変更申出書について案内する。

4. 質疑応答

質疑 1. 大阪府みどり公社で貸借している間で、借り手が何らかの理由により耕作をしなくなりその結果、農地が荒廃した場合は誰が草刈を行うのか。

回答 1. 大阪府みどり公社で実施されます。

質疑 2. 大阪府みどり公社での貸借を行う場合、どこが窓口となるのか。

回答 2. 令和7年4月1日からは、貸し手、借り手ともに摂津市 生活環境部産業振興課 農政係が窓口になります。

質疑 3. 地域計画の変更において、軽微な変更の中に「田畑転換」とあるが、どういうことを意味しているのか。

回答 3. 田んぼの場合は、水を入れることと抜くことがあるが、畑の場合は、水を抜くことがない。このように田と畑では水の利用に対して大きな差があり転換した場合には影響があると見込まれるが、地域計画としては、軽微な変更としてとらえられている。

質疑 4. 地域計画に基づき、鳥飼八町地区の農地を維持していく方向となったが、計画内でも示されている課題解決に対する内容を推進していくにあたり、府及び市において予算措置した内容についても話合いの場で示していただきたい。

回答 4. 地域計画内の任意項目ではあるが、市民農園の展開も示していることから、令和 8 年度予算において、市民農園開設に対する補助金の予算措置について現在、財政部局と交渉中である。

質疑 5. 鳥飼八町 2 丁目の荒廃している農地の所有者に対し、貸出についての打診はされているのか。

回答 5. 現時点では実施しておりません。

しかしながら、農業委員会では毎年農地パトロールを実施しており、農地の荒廃が確認できた農地所有者には、肥培管理の徹底について文書を発出しており、農地所有者から農業委員会に連絡が入った場合は、貸出の意向を伺うことを検討している。

なお、2 年前に荒廃した農地で文書発送から貸借に繋がったケースがあった。所有者の意向が確認できれば、貸し借りに繋がるため、貸し出すご意向がある場合は農業委員会までお申し出頂きたい。

質疑 6. 農地中間管理機構での貸し借りは、10 年となっているが、貸借期間中に基盤整備や農地の集約化を進めることとなった時など、その農地があることで事業が進まなくなるのではないか。

回答 6. 地域計画の協議の場は、地域農業をこういった形で担い手に集約していくのかという話をする場でもあり、地域の皆さんで面的利用について話し合っていただくことで、合理的な集約を目指していただければそのような懸念はなくなる。